
4. 年齢別カリキュラム（各年齢の発達と教育のねらい）

平成30年度に施行される新たな幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、生きる力の基礎を育むため、教育及び保育の基本を踏まえ、幼稚園、保育所及び幼保連携型認定こども園において育みたい資質・能力として、

「知識及び技能の基礎」

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする

「思考力、判断力、表現力等の基礎」

気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする

「学びに向かう力、人間性等」

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

以上の3つの資質・能力を一体的に育むように努めるものとするということが明記されています。

また、この3つの資質・能力は、次ページの図のとおり乳児期の3つの視点と幼児期の5つの領域で示される教育・保育の「ねらい及び内容」に基づく活動全体によって育まれること、さらに、その活動全体を通して資質・能力が育まれている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示しつつ、保育教諭等が指導を行う際に考慮するものであることが明記されています。

本章で示す「年齢別カリキュラム」は、これらの新指針・要領で示された育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえたうえで、おおむね6か月未満からおおむね5歳までの各年齢における子どもの発達と教育のねらいなどを育ちの目安として示したものです。



＜新たな幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領で示された「育みたい資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と門真市就学前教育・保育共通カリキュラムの関係＞

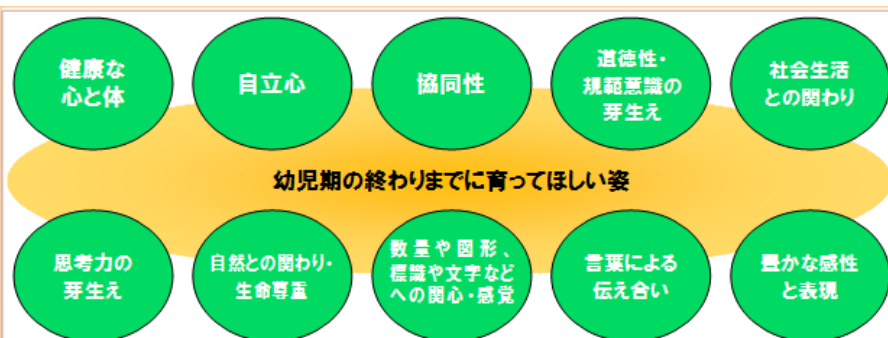
【門真市の基本理念】

未来をひらく子どもを育てる

【門真市のめざす子ども像】

思いを伝えつながる子ども

心豊かな子ども“いきいき” 健やかな子ども“のびのび” 遊び学ぶ子ども“わくわく”



幼稚園、保育所、認定こども園等において育みたい

3つの資質・能力

知識及び技能の基礎

思考力・判断力・
表現力等の基礎

学びに向かう力、人間性等

【年齢別カリキュラム】

遊びを通しての総合的な指導

5つの領域(幼児期)

言葉

表現

3つの視点(乳児期)

身近な人と
気持ちを通じ合う

身近なものと関わり
感性が育つ

健やかに
伸び伸びと育つ

人間関係

健康

環境

年齢別カリキュラム

～育ちのめやす～

本カリキュラムで示す「年齢別カリキュラム」は、小学校就学前までの各年齢区分をスロープ状の発達としてとらえ、その延長線上に小学校教育があり、さらに中学校・高等学校教育へと接続することを意識し、一人一人の子どもの発達過程や環境、入園の時期などの状況をふまえたうえで活用してください。

なお、年齢別カリキュラムに記載している内容は、あくまでも例示であり、また、各年齢の到達点を示すものではありません。



おおむね6か月未満

ねらい
(○養護
●教育)

- ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で依存欲求を満たし、安心して過ごせるようにする。
- 気温の変化や体調に留意し、健康に過ごせるようにする。
- 特定の保育教諭等と触れ合い、安心して機嫌よく過ごし、愛着関係ができていく。
- 安全な環境のもとで、腹ばい・寝返りなど、全身運動をする。

気持ちいいな～

- ・心地いい時は微笑んだりし、不快な時は泣いたりして自分の欲求を伝えようとする。
- ・身近な大人との愛着関係や信頼関係をつくり、安心感や満足感を抱く。



- ・哺乳量が一定し、授乳時間がほぼ決まってくる。
- ・空腹になったり、眠くなったり、おむつが汚れたりすると、泣いてぐずったりする。
- ・1日のうち睡眠と目覚めを何度も繰り返す。
- ・大人があやすと「アー・ウー」などクーイングが始まる。上下左右に動くものを追視する。
- ・首がすわり、うつぶせにすると両手で腹ばいになって上半身を起こす。
- ・眠っている時と目覚めている時がはっきり分かれ、夜と昼の睡眠パターンができる。
- ・寝返り、腹ばいをしようとする。
- ・人見知りが始まる。また、母親など特定の大人と他の人との区別がつき、姿が見えないと泣いたりする。
- ・保育教諭等の声に反応したり、顔をじっと見つめたりする。目が合うと微笑んだり、声を出して笑ったりする。
- ・人や玩具に向かって喃語が出るようになり、あやしてもらうと声を出して笑う。
- ・手を口に持っていったり、指を口に入れようとしたりする。また、目の前の物をつかもうとする。
- ・手に触れたものを握る。



※ 上記事項は、おおむね発達の道筋に沿って記載しております。



《 内 容 》

思いを伝えつながら育つ子ども

健やかな子ども

／ 心豊かな子ども

／ 遊び学ぶ子ども

健やかに伸び伸びと育つ／身近な人と気持ちを通じ合う／身近なものと関わり感性が育つ

○ 情緒の安定した環境のもとで過ごす。

- ・授乳の前後は顔や手を拭いてもらう。
- ・保育教諭等に抱かれてゆったりとミルクを飲み、安心して眠る。
- ・おむつが濡れた時は交換してもらう。
- ・体調のよい時は沐浴をしてもらう。
- ・気温や室温に応じて、衣服を着替えさせてもらう。
- ・一人一人の生活リズムや体調に合わせ、短時間の外気浴をする。
- ・抱っこしてもらい、ゆったりとした揺れを感じる。
- ・毎日同じ場所で遊んだり授乳してもらったりする。
- ・腹ばいになり、手足を十分に動かして遊ぶ。



○ 身近な人と過ごす喜びを感じる。

- ・優しく語りかけてもらったり、目を合わせて泣き声や喃語に応えてもらったりする。
- ・保育教諭等にいろいろな歌を歌ってもらったり、触れ合い遊びをしてもらったりして喜ぶ。
- ・大人の語りかけに対して喃語で応えたり、声を出して笑ったりする。
- ・優しく声をかけてもらったり、名前を呼んでももらったりすることを喜ぶ。
- ・快、不快の気持ちを、声や泣き声で表す。

○ 身の回りのものに親しむ。

- ・抱っこ、腹ばい、支えられて座るなど、体位を変えてもらうことで視野が広がる。
- ・保育教諭等に見守られながら、身の回りのものを見たり、音を聞いたりと、触れたりする。
- ・動くものを目で追ったり、音の鳴るものに反応したりして喜ぶ。
- ・手のひらに触れたものを握ったり、なめたりして確認する。

《 環境構成と援助 》

- ・優しく語りかけながら、授乳やおむつ交換を行い、心地よさが感じられるようにする。
- ・睡眠時、保育教諭等は保育室から離れることなく環境条件や寝具の掛け方に注意すると共に、定期的に呼吸や顔色など状態をきめ細かに観察し、記録する。
- ・一人一人の発達を把握して生活リズムの安定を図り、落ち着いた環境の中で生活が出来るようにする。
- ・子どもの様子や身体的な発達に合わせて、色彩やベッドの配置などの保育室の環境を整える。
- ・気候に応じて、室内の温度、湿度、換気などの調整をし、快適に過ごせるようにする。
- ・子どもの状態に合わせて、クッションを使って腹ばいの姿勢を安定させたり、寝返りをしようとする力を十分発揮できるように手を添えたりして助長する。
- ・一人一人の健康状態を把握し、異状があったときは早期に発見し、適切に対応していく。

- ・特定の保育教諭等が、一人一人の子どもが出すサインや表情を見逃さず受け止め、優しい言葉や笑顔で応答的に丁寧にに関わり、信頼関係を築く。
- ・特定の保育教諭等が抱いたり微笑みかけたりして甘えなどの依存欲求を満たし、ゆっくり穏やかに関わることで愛着心の基礎を築けるようにする。
- ・身近な人とそうでない人との顔が分かるようになる時期なので、保育教諭等は穏やかな表情で微笑みかけ、子どもの発した喃語にゆったりと語りかけるようにし、一対一の関わりを大切にする。
- ・わらべ歌、触れ合い遊びなどでスキンシップを大切に行い、安心できる大人との関係を深めるようにする。

- ・音の鳴る物、硬さや感触の違う物など、口に入れても安全に感覚が楽しめる玩具を用意しておく。
- ・手や足を十分に動かし、玩具をつかんだり、なめたりなど感覚を豊かに働かせる遊びや、寝返りなどの全身運動が出来るようにする。
- ・保育教諭等が玩具を握って見せたり握らせたりして、目と手の協応を促す。
- ・毎日、床や玩具の消毒や点検などを徹底し、安全・衛生面に配慮する。



(小学校との連携)
家庭地域との連携

- ・食欲・睡眠などの状態をありのままに受け止め、家庭と園とが一貫した生活リズムの中で、安心して過ごせるようにする。
- ・保育教諭等との日々の会話や連絡帳でのやり取りなどを通じて、子どもの様子をこまめに知らせていながら、園と家庭との信頼関係を築いていく。
- ・保護者の不安や悩みを受け止め、共感したり子どもの成長の様子を喜びあったりすることで子育ての喜びを感じられるようにし、育児へのエネルギーになるようにする。
- ・参観日などで触れ合い遊びの機会をもち、家庭でも親子で遊ぶヒントとなるように関わり方を知らせていく。
- ・SIDS(乳幼児突然死症候群)や揺さぶり症候群など、子育てに関する情報を提供する。
- ・予防接種や健診についての情報を伝え合う。

おおむね6か月～1歳3か月

ねらい（○養護 ●教育）

- 一人一人の子どもの生理的欲求を満たし、安定した生活リズムの中で気持ちよく生活が送れるようにする。
- 気温の変化や体調に留意し、健康に過ごせるようにする。
- 保育教諭等と一緒に全身を使った遊びや触れ合い遊びを十分楽しむ。
- 身近な人に優しく繰り返し応答してもらうことで、愛着心や信頼関係を深めていく。

うれしいな！たのしいな！

- ・周りのことを意識し、興味をもち始め、喜怒哀楽等が芽生えてくる。
- ・指差しや片言で思いを伝えようとする。



- # うれしいな！たのしいな！

 - ・周りのことを意識し、興味をもち始め、喜怒哀楽等が芽生えてくる。
 - ・指差しや片言で思いを伝えようとする。

- ・離乳が始まり、いろいろな味や形状のものが食べられるようになる。舌で押し出したり、味を確かめたり、口をもぐもぐ動かしたり、飲み込んだりする。食べさせてもらったり、こぼしたりしながらも、手づかみやスプーンで食べようとする。
- ・午前睡・午後睡から、一定時間安定して眠れるようになる。
- ・タイミングが合えば、便器で排泄できることもある。
- ・寝返り、座る、這う、つかまり立ち、伝い歩きなど、全身をよく動かす。引っ張る、つまむなど、手を動かし、探索活動が盛んになる。
- ・相手が指さした方向を見る(志向の指さし)。
- ・特定の大人との関わりができてくる。甘えたり、後追いをして泣いたり、人見知りしたりする。
- ・好きな遊具で一人遊びをするようになる。
- ・自我が芽生え始め自己主張しようとするが、自分の思いが表現できなくて泣き叫んだりする。
- ・簡単な言葉の意味が分かり始め「マンマ」「ブーブー」などと言ったり、「ありがとう」「ばいばい」「ちょうだい」など身振りを活発にしたりする。「ちょうだい」と声をかけると、手に持っている物を渡そうとする。
- ・一人歩きができるようになる。
- ・見つけた物を指さし「アッア～」と相手に伝える(定位の指さし)。
- ・歌や手遊びに手拍子をしたり、体を動かして喜んだり、模倣しようとする。



※ 上記事項は、おおむね発達の道筋に沿って記載しております。



《 内 容 》

○健康で安全な環境のもとで、落ち着いて生活する。

- ・おもむきが濡れたら替えてもらう。
- ・睡眠のリズムが整っていき、一定時間眠る。
- ・気温や体調によって衣服の調節をしてもらう。
- ・保育教諭等と一緒に手を洗ったり、鼻水をとってもらう。
- ・座る、這う、立つ、伝い歩きなど全身の動きを十分経験し探索活動をする。
- ・離乳食に慣れ、手づかみで食べようとしたり、食べることを楽しんだりする。
- ・様々な食品の味に慣れる。

○身近な人との関わりを齎す

- ・思いを受け止めてもらい、優しく応答してもらう。
- ・触れ合い遊びなど保育教諭等との関わりを楽しむ。
- ・人の顔が分かり、特定の保育教諭等にあやしてもらうことを喜んだり、知らない人を見て泣いたりする。
- ・大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かり、反応したり、行動したりする。
- ・喃語が盛んになり、気持ちや欲求を「アーアー」「ウーウー」などと声に出したり、表情や身振りで伝えようとしたりする。

○身近な環境に関わり、楽しむ。

- ・素材の感触を楽しみながら遊ぶ。
- ・両手に物を握って打ちつけたり、興味のある物をつまんだりして、手指を動かして遊ぶ。
- ・好きな玩具・遊具に興味をもって関わり、様々な遊びをする。
- ・戸外遊びや散歩を通して、四季の自然や身近な小動物を見たり触れたりし、興味をもつ。
- ・散歩に出かけて外気や自然に触れたり、周りの物を見たりして喜ぶ。
- ・聞く、見る、触るなどの経験を通して感覚器官（目・鼻・舌・皮膚）や指先の機能を高める。
- ・好きな絵本を繰り返し読んでもらうことで、真似して言葉を発する。
- ・保育教諭等と一緒に、歌や手遊びに合わせて手や足を動かしたり、音を出したり、模倣したりして喜ぶ。



思いを伝えつながら子ども

身近な人と気持ちが通じ合う／身近なものに関わり感性が育つ

健やかな子ども／心豊かな子ども／遊び学ぶ子ども

健やかな子ども

心豊かな子ども

遊び学ぶ子ども

（小学校等との連携）
家庭・地域との連携

- ・保護者と子育てについての思いを共感し、信頼関係を築き、安心して子育てができるようにする。
 - ・相互の連絡帳(検温・食事・睡眠・排便・投薬など)や送迎時を通して子どもの様子を伝え合い、共通理解をする。
 - ・一人一人の成長に合った離乳食を進めることができるよう、保護者と情報を共有し連携を図る。
 - ・アレルギーの有無を尋ね、医師の診断や指示書の下、除去食の対応をする。
 - ・6か月を過ぎると母体免疫が弱まり、感染症にかかりやすくなるので、クラス便りや口頭・掲示板などで、流行性疾患についての特徴や情報を伝えて予防や、早期発見・早期治療に努めてもらう。
 - ・散歩で自然や地域の人と関わる機会をもち、地域とつながる。
- 



《 環境構成と援助 》

- ・タイミングや機嫌を見て排泄に誘いながら、一人一人に合った方法や言葉がけで、おむつ交換する。
- ・一人一人の生活リズムを大切にしながら、安心して眠れる環境を整える。
- ・保育室内の室温、湿度に留意し快適に過ごせるようにする。
- ・視触診・検温などで健康状態を把握し、変化が見られた時は適切に対応する。
- ・食事前や入室後などには手洗いを習慣付けるようにし、感染症予防や清潔な習慣が身に付くようにする。
- ・離乳食は、保護者や栄養士、看護師などと連絡を取り合い、一人一人に合わせて形状や量を話し合って進めるようにする。
- ・自分から食べようとする意欲を大切にして、一人一人の量や食べ方に合わせて援助していく。
- ・座位が安定したら椅子に座り、一人一人の体に合わせて机との高さなどを調節し、安定した姿勢で食べられるようにする。

- ・人見知り、不安、甘え、怒りなど、一人一人の感情表現をしっかり受け止め、応答やスキンシップなどで、保育教諭等との愛着心が深まるようにする。
- ・保育教諭等間で、一人一人の子どもに共通した対応ができるよう連携する。
- ・優しい声で名前を呼び掛けたり、歌を歌ったり、喃語に応答したりして、保育教諭等との一对一の関わりを十分にもつようにする。
- ・喃語、片言、動作から欲求や興味に気づき、気持ちをくみ取りながら発語につながる言葉かけや関わりを大切にしていく。

- ・一人遊びに集中して満足できるように好きな遊びを把握し、スペースや玩具を整え、十分な時間をとる。
- ・戸外遊びや固定遊具・運動遊具などで歩く、登る、すべる、転がるなどの様々な動きが楽しめるようにし、保育教諭等はすぐに支えられる位置に付き、安全に遊べるように配慮する。
- ・自然を感じたり、見たり、触れたりできるような散歩コースを事前に確認する。
- ・ベビーカーでの散歩や戸外での遊びでは、十分時間をとったり、子どもの指差しや片言に言葉を添えて応答的に関わったりして、驚きや発見に共感する。
- ・保育教諭等と一緒に体を揺らして全身でリズムをとったり、楽しんだりできるような子どもの好きな手遊びや曲を用意する。
- ・子どもが興味を示すような、いろいろな色、形、音、材質の違う手づくり玩具などを用意して、見たり、聞いたり、触ったりして五感を使った遊びを楽しむようにする。
- ・指先を使った遊びや、寝返り、這う、伝い歩きなどの全身を使う遊びが十分に楽しめるように、衛生的で安全な環境を整える。

おおむね 1 歳 3 か月～2 歳未満

ねらい (○養護 ●教育)	○ゆったりとした家庭的な雰囲気大切に、一人一人の甘えや要求が十分に満たされるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちに丁寧に応えながら、身の回りのことを自分なりにしようとする気持ちが満たされるようにする。 ○気温の変化や体調に留意し、健康に過ごせるようにする。 ●一人遊びを十分楽しみながら探索活動をする中で、身の回りのことや友達にも興味をもつ。 ●保育教諭等や友達と関わる中でいろいろな言葉を獲得し、使うことを楽しむ。	 《 内 容 》	《 環境構成と援助 》
子どもの姿	なんだろうな！ ・身近な人や身の回りのものに自発的に関わろうとする。 ・自分の思いを指差しや身ぶりや簡単な言葉などで伝えようとする。  ・仕草や簡単な言葉でパンツやおむつが濡れたことを知らせたり、保育教諭等に促されてトイレに行ったりするようになる。 ・パンツなど簡単な衣服の着脱を保育教諭等と一緒にしようとする。 ・手洗いや鼻かみなど、保育教諭等や友達の真似をして、自分でしようとする。 ・スプーンやフォークなどを使って、こぼしながらも自分で食べようとする。 ・食べ物の好き嫌いが出てくる。 ・午後1回の午睡になり、一定時間安心して眠れるようになる。 ・身の回りのことをやってみようとする気持ちが強くなり、保育教諭等の援助を「イヤ」と拒んだり、「自分で」と主張を通そうとしたりする姿がみられる。 ・体のバランスがとれるようになり、一人での歩行が確立し探索活動が活発になる。 ・歩く、走る、登る、跳ぶなどの一般的運動の基礎ができる。 ・思いをうまく伝えられず、物や場所の取り合い・自己主張のぶつかり合いなどで、噛みつきやひっかきなどの行動に出ることがある。 ・玩具を使って単純な動作を繰り返したり、感触を楽しんだりして、砂遊びや水遊びをするようになる。 ・指差し、身振り、片言で意思を表し、簡単な言葉のやりとりを楽しむようになる。 ・人形をトントンしてあやす仕草など、見立て遊びをする。 ・周りの友達が走り出すと一緒に走ったり走り出すなど、イメージを共有化して遊ぶようになる。 ・繰り返しのある絵本や気に入った絵本、ペープサートなどを喜んで見る。 ・簡単な歌やリズムに合わせて体を揺らしたり、保育教諭等の動作を真似たりする。 ・手指の細かい動きが発達し、積み木を積んだり、シールなどを貼りはがしたり、パステルなどでなぐり描きをして遊ぶようになる。	思いを伝えつなげる子ども 健康 ／ 人間関係 ／ 環境 ／ 言葉 ／ 表現 ／ 健やかな子ども ／ 心豊かな子ども ／ 遊び学ぶ子ども ／ 健康 ・楽しい雰囲気の中で、スプーンやフォークなどを使って食べようとする。 ・排泄した後、出たことを仕草や言葉で伝えようとする。 ・トイレで排泄することに興味をもち、少しずつ慣れていく。 ・生活リズムを整えるために、午睡など休息をとる。 ・自分で顔や手を拭き、気持ちよさを感じる。 ・ズボンや靴下など、簡単な衣服や靴を脱いだり、履いてみたりする。 ・さかんに歩いたりしゃがんだりして、全身を使って遊ぶ。 ・積む、つまむ、転がす、はがすなど、手や指を使って遊ぶ。 ○保育教諭等や友達への興味・関心が高まる。 ・気持ちを受け止めてもらいながら、自分でやってみようとする。 ・保育教諭等に見守られながら、安心して好きな遊びを楽しんだり、関わってもらうことを喜んだりする。 ・保育教諭等との安心できる関係の中で自分の気持ちをのびのびと表現する。 ・保育教諭等や友達のしていることに興味・関心をもち、真似したり一緒にやってみようとしたりする。 ・周りの大人の反応を感じながら、してよいことと悪いことがあることに気付く。 ○身近な環境に親しみ触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。 ・様々な物を見たり触れたりして、探索活動を楽しむ。 ・散歩や戸外遊びを通して、虫や草花など自然に親しむ。 ・水、土、砂などの自然物に触れて遊び、感触を楽しむ。  ○保育教諭等の言葉を真似たり、自分でも思ったことを伝えようとする。 ・名前を呼ばれて返事をしたり、保育教諭等の言葉を真似てやり取りを楽しんだりする。 ・指差し、身振り、片言、簡単な言葉などで思いを伝えようとする。 ・絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして遊ぶ。 ○色々な感覚遊びや表現遊びを楽しむ。 ・保育教諭等と簡単な歌を歌ったり、リズムを合わせて体を動かしたりして楽しむ。 ・いろいろな素材を使って、感覚遊びを楽しむ。 (フィンガーペイント・小麦粉・片栗粉・粘土・スライム・砂・土・水など) ・腕を左右、上下、丸く動かすなどして、なぐり描きを楽しむ。	・自分で食べようとする気持ちを大切にしながら、一人一人の食べ方にあわせて援助していく。またスプーン、フォークなどの正しい持ち方を知らせる。 ・排泄のタイミングを見て誘いながら、無理強いせずトイレに慣れていけるようにする。 ・一人一人の生活リズムに応じて安心して午睡や休息ができるように、ゆったりとした関わりをする。 ・さりげなく手を添えたり、しっかり褒めたりするなど、衣服の着脱を自分でできた喜びが感じられるようにする。 ・食事の前やトイレに行った後、手を洗うように促したり、自分でしようとする姿を見守ったりする。 ・感染症の罹患が増えやすいため、安全面や体調管理に注意する。 ・自由に歩ける場を広くとり、自分の意思で歩けるようにする。 ・ぐったり、登ったり、滑ったり、転がしたりなど、全身を使う遊びや指先を使う遊びが楽しめるようにする。 ・保育教諭等は、表現や言葉でわかりやすくその場をとらえ、褒めたり励ましたりしながら、してよいことと悪いことを伝えていく。 ・一人一人の気持ちを理解し、受けとめていくことにより、子どもが自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ・ぶつかり合いや噛みつき、ひっかきなどが起こりやすい時期なので、子どもの行動や遊びを見守り、お互いの気持ちを汲んで、危険な時には止めるようにする。 ・見立て遊びができる生活用具や玩具を用意して、保育教諭等と一緒に楽しんで遊べるようにする。 ・安全な環境を整え、数人ずつ散歩に出かけて自然物を見たり、触れたりする機会を多くもつ。 ・安全に配慮しながら様々な素材と触れ合う機会をつくり、その楽しさを十分に感じられるようにする。 ・玩具の取り合いなど、トラブルの時は子どもの思いを受け止め代弁し、やりとりに必要な言葉を知らせていく。 ・子どもの発語や指差しには、言葉で優しく応答的に関わるようにする。 ・繰り返しの言葉のある絵本や手遊びなどを何度も楽しめるようにし、その都度、応答的な関わりを大切にする。 ・保育教諭等は、生活や遊びの中で子どもの好きな手遊びや歌を繰り返し歌い、リズムや言葉、身振りを楽しめるようにする。 
		家庭・地域との連携 (小学校等との連携) ・連絡ノートや送迎の時間を利用して園での様子を伝え、安心感をもってもらう。 ・子育ての喜びや悩みなどに共感しながら信頼関係を築いていく。 ・友達との物の取り合いやトラブルが見られる時期なので、トラブルも成長の段階であることを伝える。また、トラブルが起きた時には、その原因や状況を伝えて理解してもらう。 ・家庭や園内の様子を伝え合い、食事、睡眠、排泄、遊びなどの生活リズムを整えることが心身ともに安定した生活につながることを理解し合う。 ・散歩や行事を通して、地域の方と触れ合いをもつようにする。 ・自分でやりたいという気持ちをもつことが成長の過程であることを知らせ、子どもの気持ちを受け止めて見守り、待つ姿勢も大切であることを伝える。 ・感染症についての特徴や情報などを知らせ、予防、早期発見ができるように子どもの体調の変化を伝え合うようにする。 ・保護者と連携をとりながら健康状態の把握をしっかりと行い、体調の変化に気付けるようにする。	

おおむね 2歳

ねらい（〇養護 ●教育）	〇生活や遊びの中で一人一人の気持ちを十分受け止め、安心して過ごせるようにする。 〇気温の変化や体調に留意し、健康に過ごせるようにする。 ●保育教諭等に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことが自分でできる喜びを味わう。 ●保育教諭等や友達と一緒に言葉のやり取りをしたり、体を動かして遊ぶことを楽しんだりする。	思いを伝えつながらる子ども	健康	／	人間関係	／	環境	／	言葉	／	表現	／	遊び学ぶ子ども	
子どもの姿	自分で！ 自分で！ ・自分でやってみたいという意欲が育ち、身近な保育教諭等に支えてもらいながら挑戦しようとする。 ・自分のしたいことやしてほしいことを簡単な言葉や仕草で伝えようとし、思いや行動のすべてが受け入れられないこともあることに気付く。  ・自分でパンツを脱ぎトイレに行行って排泄するようになるが、後始末できないところは保育教諭等に手伝ってもらう。 ・衣服の前後が少しずつ分かるようになり、着脱を自分でしようとし、保育教諭等と一緒にたたもうとする。 ・保育教諭等に見守られたり手伝ってもらったりしながら、手洗いや鼻水拭き、うがいなどを自分でしようとする。 ・一人一人の発達に応じてスプーン、フォークなどを使って、こぼしながらも自分で食べることを楽しむ。 ・食後に口の周りを拭いたり、ものを決まった場所に戻したりなど、できることを自分でしようとする。 ・保育教諭等の真似をして、遊び方や簡単な身のまわりの生活の仕方を覚えていく。 ・戸外で、かけっこやジャンプなど全身を使って遊ぶことを楽しんでする。 ・両手のコントロールができるようになり、積み木などで遊ぶことを楽しむ。 ・遊びに簡単な約束があることが少しずつ分かってくる。 ・友達と関わりながら遊ぶ姿が増えてくるが、自己主張が強くなり、トラブルになることも多い。 ・自分の物を片付けるロッカーなどの場所が分かる。 ・保育教諭等や友達と手をつないで散歩に出かけ、歌を歌ったり、草花や虫などをじっと見たり触ったりする。 ・友達と関わって遊ぶ中で、自分の思いを十分ではないが言葉で伝えようとする。 ・自分の知っている言葉をつなげて、してほしいことを要求したり、耳にした言葉を真似て言ったりするようになる。 ・保育教諭等や友達と一緒に、人形のお世話などの簡単なごっこ遊びを好んでする。 ・簡単な繰り返しやリズムカルな言葉の絵本を喜び、言葉で表現し友達と楽しさを共有するようになる。 ・保育教諭等や友達と一緒に、季節の歌を歌ったり、リズムにのって体を動かしたりすることを喜んでする。 ・指先の操作も発達し、粘土遊びやクレヨン、はさみなどの道具を使ってかいたりつくったりする。	健やかな子ども	／	心豊かな子ども	／	発達のおもな特徴								
発達のおもな特徴		（小学校等との連携） 家庭・地域との連携												

おおむね 3歳

ねらい
(○養護
●教育)

- 季節の変化に応じて、健康的で安全な環境を作り、快適に過ごせるようにする。
- 生活習慣や身の回りのことを自分でしようとする。
- 保育教諭等と一緒に、いろいろな遊びを楽しむ。
- 遊びの中で自分の思いを表現し、簡単なルールを守って友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る。
- 保育教諭等や友達と一緒に自然現象に興味・関心をもち、親しむ。
- 経験したこと、思ったこと、感じたことなどを、自分なりに表現することを楽しむ。

なぜ？どうして？

- ・生活する中で「なぜ？」「どうして？」「これ何？」「どうするの？」と保育教諭等に尋ね、理解したい気持ちが高まっていく。
- ・友達との関わりを通して、自分の思いを伝えながら一緒に楽しく遊べるようになる。



子どもの姿・発達のおもな特徴

- ・好き嫌いもあるが、食べる意欲をもっている。こぼすことや時間がかかることがある。
- ・保育教諭等が見通しをもって声をかけ、トイレに行く習慣を身に付ける。うまくいかないこともあるが、自分からトイレに行こうとする姿が見られる。
- ・生活のリズムを知り、身の回りのことを自分でしようとする。
- ・自分の物と友達のものとの区別ができるようになる。
- ・周りの友達や遊びに関心をもち、自分から進んでいろいろな活動に取り組もうとする。
- ・玩具などの取り合いによるトラブルもあり、自己主張する姿が見られる。
- ・自分のしたい遊びを見つけることができ、落ち着いて遊べるようになる。
- ・「○○ごっこしよう」と友達を誘って一緒に遊び、同じことをして遊ぼうとする。一方で、保育教諭等の傍で安心して過ごす子どももいる。
- ・順番や交代、並ぶなどの共通の決まりがあることを知り、意識して園活動や遊びをする。
- ・野菜や花の栽培、小動物や昆虫、木の実や木の葉などの自然物に関心を示し、好奇心をもって見たり、触れたりして遊ぶ。
- ・遊びや生活の中で必要な言葉を使おうとしたり、自分が感じたことや思ったことを言葉で伝えようとしたりする。
- ・パステルやはさみ、のりなどの使い方を知り、自分なりに使って遊ぼうとする。



《 内 容 》

《 環境構成と援助 》

思いを伝えつなげる子ども

健康

人間関係

環境

言葉

表現

健康
／
人間関係
／
環境
／
言葉
／
表現
／
遊び学ぶ子ども

○生活の仕方を知り、健康に過ごす。

- ・食事のマナーや箸などの使い方を知る。
- ・衣服の着脱、排泄、手洗い、うがいなど、身の回りのことを自分でしようとする。
- ・走る、跳ぶ、投げる、蹴るなどの運動をして遊びながら、いろいろな体の動きを楽しむ。
- ・戸外での約束や交通ルールについて知る。

○友達と生活する中で、決まりを守ろうとする。

- ・友達がやっていることを真似て遊ぶ。
- ・友達や保育教諭等の手伝いを喜んでする。
- ・順番を守ることや友達と分けることなどの決まりを知る。
- ・トラブルを経験しながら、少しずつ友達の気持ちに気付く。
- ・異年齢児との交流や触れ合いをもつ。

○身近な環境に親しみ、興味や関心を持つ。

- ・生活や遊びの中で、物の色や形、量、数などに興味をもつ。
- ・「おもしろそう」「やってみたい」という気持ちをもち、繰り返し遊ぶ。
- ・身近な自然に触れて遊ぶ。
- ・植物の栽培や小動物等との触れ合いの中で生命があることを知り、大切にしようとする。
- ・身近な用具の使い方や始末の仕方を知る。

○自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。

- ・生活や遊びの中で、自分の思いや要求を言葉で伝えようとする。
- ・興味を持って保育教諭等や友達の話聞く。
- ・いろいろな場面で、「なぜ？」「どうして？」「これ何？」「どうするの？」と尋ね、いろいろなことに興味・関心を持つ。
- ・「おはよう」「さようなら」などの挨拶を自分からしようとする。

○自分なりに表現して楽しむ。

- ・絵本や紙芝居などを繰り返し見たり聞いたりする。
- ・見立て遊びをしたり、イメージしたものをつくったりし、ごっこ遊びに取り入れる。
- ・いろいろな素材を使って、かいたりつくったりして遊ぶ。
- ・かいたりつくったりしたものに自分なりの思いをもち、遊びを楽しむ。
- ・保育教諭等や友達と一緒に歌ったり、簡単な楽器を使ったりして表現して遊ぶ。



- ・一人一人の発達を把握し丁寧に関わる中で、箸などの持ち方や姿勢などマナーを知らせ、楽しい雰囲気の中で食事が出来るようにする。
- ・手指操作の機能が十分でない場合は、遊びを通して無理なく箸などへの移行へつなげるようにする。
- ・健康に関する絵本や紙芝居などを利用して手洗いうがいの必要性を知らせ、進んでしている子どもを認めることで、周りの子ども達も、「やってみよう」「できた」という気持ちをもてるようにする。
- ・生活の流れや身の回りの始末の仕方を、同じ方法で繰り返し十分にゆとりを持って知らせていくことで、身に付くようにする。

- ・一人一人の遊びを大切にしながら、計画的にルールのある遊びを集団で行うことで、合図や順番、交代などの約束を理解できるようにする。
- ・玩具と一緒に使ったり力を合わせて遊ぶ中で、互いの思いを受け止めたり、適した言葉を一緒に言ったりしながら、友達との関係が深まるよう関わり方を知らせていく。

- ・満足感・達成感を味わえるよう遊べるスペースを保障し、片付けが意欲的にできるよう、表示や収納の仕方を工夫した環境をつくる。
- ・自然現象に触れる中で子どもの驚きや発見に共感し、「なぜ」「どうして」という好奇心に丁寧にこたえ、より自然物への関心を高めることができるようにする。



- ・保育教諭等も仲間になってごっこ遊びで言葉のやり取りを一緒にし、役になりきって遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- ・子どもの興味・関心や季節に合わせて、絵本や紙芝居などの教材を選び読み聞かせ、イメージを豊かにする。
- ・保育教諭等は、繰り返し遊べる素材や用具を数多く準備し、集中して取り組めるように見守り、必要に応じて援助しながら、安全なはさみの扱い方やのりの適量などを知らせる。
- ・自然に体を動かしたくなるような親しみやすい曲を取り入れ、喜んで表現できるようにする。

- ・自分のことを自分でしようとしている姿を大切に見守り、時間がかかっても待ったり、励ましたり、褒めたりして関わる大切なことを知らせる。
- ・うがいの仕方などを正しく身に付けられるようにわかりやすい絵図を配布したり、健康で安全な集団生活を送れるよう感染症予防を促すための情報発信をしたりし、園と家庭とが協力しながら取り組めるようにする。
- ・保護者の声に耳を傾け、子どもの心の状態を教えてもらったり、園での様子について知らせたりして連絡を取り合い、安定した気持ちで過ごせるようにする。
- ・子どもがいろいろと知りたがって尋ねてくることに答えたり、優しく関わってあげたりするなど、家庭においても子どもの発達段階が理解できるように知らせる。
- ・散歩などを通して地域の人に挨拶をしたり、色々な場所(公園、施設、道路、交差点など)を知ったりして、親しみがもてるようにする。

おおむね 4歳	
ねらい (○養護 ●教育)	○ 季節の変化に応じて健康で安全な環境をつくり、進んで自分のことを自分でしながら快適に過ごせるようにする。 ● 健康で安全に過ごすための基本的な生活習慣を身に付け、自分から進んでしようとする。 ● 保育教諭等や友達と一緒に戸外に出て体を動かして遊ぶことを楽しみながら、決まりやルールの大切さに気付き、守って遊ぶことの楽しさを味わう。 ● いろいろな遊びに興味・関心を持ってやってみよう取り組み、自分の力を発揮する。 ● 季節の移り変わりを感しながら自然現象に興味を持って関わり、様々な遊びに取り入れて夢中になって遊ぶ。 ● 興味・関心のある遊びを楽しむ中で、気の合う友達と、見たこと感じたこと思ったことなどを自分なりに表現し、伝え合いながらつながりを深める。
子どもの姿	友達大好き！ ・仲間意識が芽生え、友達と誘い合って遊ぶ。 ・思ったことや感じたことを伝え合う楽しさや喜びを感じる。 
発達のおもな特徴	・手洗いうがいなど、生活に必要な習慣が次第に身に付き、自分でできることは自分でしようとする。 ・自分の持ち物とみんなで使うものが分かり、分類して片付けることができるようになる。 ・遊具や用具の安全な使い方を知り、いろいろな遊びを楽しんだり挑戦したりして遊ぶ。 ・できるようになったことを喜んで遊ぶ姿が見られる。 ・気の合う友達と誘い合ってじっくり遊ぶようになり、仲間意識が芽生え始める。 ・保育教諭等や友達と一緒に、運動遊びや集団遊びなどのルールのある遊びを楽しむようになる。 ・ルールを守ったり、交代しながら遊んだり、順番を待つことができるようになり、次に、自分の気持ちを抑えることができるようになる。 ・年長児や友達の真似をして遊び始め、競争心が芽生え、勝ち負けを意識するようになる。 ・身近な自然に興味を持ち、散歩や戸外遊びを通して小動物や草花等の様々な発見を楽しみ、拾った木の実や木の葉などで、色、形、大小などを友達と比べたりして遊ぶ。 ・身近な動植物の世話をして、成長(生長)や変化に気づき、興味・関心をもつようになる。 ・自分の思いや考えを言葉で伝えられるようになる。 ・気の合う友達と遊ぶ中でイメージを膨らませ、互いの思いや考えを伝えたり、遊びに必要な物をつくったりして遊ぶ。 ・紙芝居や親しみのある絵本を見たり聞いたりして、言葉のやり取りを楽しんだり、なりきってごっこ遊びをしたりする。 

《 内 容 》		《 環境構成と援助 》
 思いを伝えつながら子ども	健康 ／ 人間関係 ／ 環境 ／ 言葉 ／ 表現	○体を十分に動かして遊ぶ。 ・旬の食べ物を見たり触れたり味わったりするとともに感謝の気持ちをもち、食べた物がどんな力になっていくかを知る。 ・手洗い、うがい、歯磨き、衣服の調節など、基本的な生活習慣が身に付き、自分で進んでする。 ・保育教諭等や友達と一緒に全身を動かして遊んだり、競争して遊んだりする楽しさを味わう。 ・危険な場所や遊具の安全な使い方を知り、気を付けて遊ぶ。 ・片足跳びやスキップなど、いろいろな動きを楽しみながら、体をコントロールすることを知る。 ・保育教諭等や友達と誘い合って遊ぶ中で、ルールの大切さに気付き守ろうとする。 ○友達と一緒に過ごす中で、相手の思いに気付く。 ・気の合う友達と一緒に、気持ちを伝え合いながら遊ぶことを楽しむ。 ・自分なりに目標をもち、いろいろな遊びに、繰り返し取り組む。 ・友達や異年齢児と関わって遊ぶ中で、遊具や用具を交代して使ったり、順番を待ったり、譲り合ったりする気持ちをもつ。 ・自分の物や共同の物を大切に扱う。  ○身近な環境に自分から関わり、生活に取り入れようとする。 ・いろいろな事に興味・関心を示し、好奇心をもって、試したり工夫したり挑戦したりする。 ・飼育物や栽培物に興味をもち、保育教諭等や友達と世話をしたり、成長(生長)を喜んだりする。 ・身近な遊具や用具などの扱い方を知り、友達と一緒に準備したり片付けたりする。 ・園外保育や散歩などを通して、身近な公共施設や交通機関などに興味・関心をもったり、交通ルールを守ったりする。 ・自然の美しさや不思議さに興味・関心をもち、生活や遊びに取り入れたり、季節の移り変わりに気付いたりする。 ・生活や遊びの中で、数えたり比べたり、分けたり集めたりしながら数量への興味を深めたり、図形や簡単な標識などにも関心をもつ。 ○伝え合う喜びを味わう。 ・友達や保育教諭等とのやり取りの中で、自分の思いや考えを話したり、相手の思いや気持ちに気付いたりする。 ・保育教諭等に親しみをもち、自分の思いを言葉で伝えようとする。  ○イメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。 ・絵本、紙芝居、視聴覚教材などを楽しみ、イメージを膨らませて、物語の面白さや不思議さを味わう。 ・イメージを膨らませ、様々な方法で表現したり、なりきってごっこ遊びを楽しんだりする。 ・友達と一緒に歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりする。 ・楽器の扱い方を知り、楽器遊びや合奏を楽しむ。 ・はさみやのりの使い方に慣れ、かいたりつくったり、つくったもので遊んだりする。
	(小学校等との連携)	・感染症の予防や対応について保護者に話したり便りを配布したりし、手洗いうがいの励行、バランスのよい食事、十分な睡眠をとることの必要性について知らせる。 ・保育参観などを通して一緒に遊んだり、絵本の読み聞かせを推進したりして、親子の触れ合いを楽しめる機会をもつ。 ・個人懇談などを成長や課題などを振り返る機会にし、育ちについて保護者と一緒に共感したり考えたりする。 ・友達との関わりが増え楽しく遊べるようになった半面、自分の思い通りにならないことが増え、トラブルが発生しやすい発達段階であることを保護者に伝え、理解を得る。 ・散歩や園外保育で公共の場へ出掛け、地域の様々な人達とあいさつや言葉を交わし、親しみをもち、 ・年長児と一緒に小学校との交流活動に参加する。

おおむね 5歳

ねらい（○養護 ●教育）

子どもの姿・発達のおもな特徴

- 一人一人の成長を認め、年長児としての自信や自覚をもって、健康で安全に過ごせるようにする。
- 同年齢や異年齢の友達と一緒に体を動かして遊び、つながりを深める。
- 自分の目的に向かって根気強く取り組み、満足感や達成感を味わう。
- 友達と共通の目的を持ち、遊びのルールを考えたり、思いを出し合いながら協力して取り組み、満足感や達成感を味わう。
- 身近な事象に興味をもち、見たり感じたりしたことを友達と一緒に調べたり試したりして、関心を高める。
- 自然物や動植物に興味・関心をもち、世話をしたり観察したりすることで命の大切さに気付く。
- 友達と思いや考えを言葉や表現で伝え合いながら、一緒に繰り返し遊ぶ楽しさを味わう。

みんなでやるのは楽しい！

- ・同年齢や異年齢の友達と一緒に遊んだり活動したりすることで、協調性や譲り合いの気持ちをもつ。
- ・自分が思ったこと、感じたこと、経験したことを言葉で表現し、思いを伝えるだけでなく、相手の話をよく聞き、互いに認め合い、心が通じ合う喜びや楽しさを感じる。

An illustration of two children, a girl and a boy, playing with toys. The girl is on the left, wearing a green shirt and yellow pants, holding a green block. The boy is on the right, wearing a blue shirt and blue pants, holding a blue block. They are standing next to a yellow toy car with a red flag on top. There are several blue and green blocks scattered around the car.

- ・戸外で遊ぶことを喜び、なわ遊びや鬼ごっこ、竹馬など、体を巧みに動かして遊ぶことを好んでするようになる。
- ・生活や活動に見通しをもち、自信をもって行動する姿が見られ、友達と一緒に当番活動をしたり保育教諭等の手伝いをしたりする。
- ・負けて悔しい気持ちを味わうが、最後まであきらめずに取り組もうとする姿勢が見られる。
- ・自分なりの目的をもって繰り返し取り組み、友達と教え合ったり、競い合ったりして、楽しんで遊ぶ。
- ・周りの友達に刺激を受けて挑戦したり、目的に向かって取り組んでいる友達を応援したり、できたことを一緒に喜んだりする姿が見られる。
- ・友達と協力して活動に取り組む中で仲間意識が強くなり、遊びを楽しむために自分達でルールをつくって進めていく。
- ・思いや考えがくい違い、譲れないことでトラブルになることがあるが、友達の思いを受け止めようとしたり、自分の思いや考えを伝えたりしながら、自分達で解決しようとする。
- ・次第に友達が自分とは違う考えをもっていることに気付き、自分から我慢したり譲り合ったりする姿が見られるようになってくる。
- ・様々な人と関わることに興味・関心をもち、親しみを感じたり、感謝の気持ちを表現したりする。
- ・数字や文字に触れる機会が多くなり、読んだり書いたりすることに興味・関心が高まる。
- ・自然現象に興味をもち、感じたことなどを保育教諭等や友達に伝えたり、自然物を遊びの中に取り入れ、試したり工夫したりして遊ぶ姿が見られる。



思いを伝えつながら子ども

健やかな子ども

心豊かな子ども

—

遊び学ぶ子ども

家庭・地域との連携

《 内 容 》

《 環境構成と援助 》

○見通しをもって行動する。

- ・健康で安全な生活に必要な習慣や態度を身につけ、自信をもって生活する。
- ・全力で挑戦し、全身を使って遊ぶ気持ちよさを味わう。
- ・様々な遊具や運動用具を使うときの約束を守り、安全に気を付けて遊ぶ。
- ・災害時の危険を知り、合図や指示に従ったり、自分で考えて行動したりする。

○友達と一緒に過ごす中で、きまりや仲間意識を身に付ける。

- ・友達と一緒に力を合わせて遊ぶ楽しさを味わい、ルールを守って繰り返し遊ぶ。
- ・園生活に見通しを持ち、自分達で遊びや生活を進めていく。
- ・友達と一緒に、イメージを膨らませたり相談したりしながら遊びを進めていく。
- ・身近な人や異年齢の友達に思いやりの気持ちをもって、積極的に関わる。
- ・友達と目的をもち、つながりを実感して遊びに取り組む中で、仲間意識を高める。
- ・友達と協力して、当番の仕事をやり遂げる。
- ・自分と友達の考えの違いに気付き、受け入れたり折り合いをつけたりしながら、意欲的に活動に取り組む。



○身近な事象に関わり、感覚を豊かにする。

- ・身近な小動物を探して遊び、命を大切にする意識をもつ。
- ・自然の変化・美しさ・不思議さに感動し、遊びや生活に取り入れる。
- ・植物の栽培に興味・関心をもち、生長や変化に付く。
- ・好奇心や探究心をもって自然物に関わり、数量・形・色・大きさの違いなどに関心を深める。
- ・時計や時間に関心をもち、意識して生活に取り入れようとする。
- ・遊びや生活の中で、文字や数字に関心をもつ。

○言葉に対する感覚を豊かにし、友達や保育教諭と心を通わせる。

- ・人の話を注意して聞き、自分の考えや思いを相手に分かるように話す。
- ・発見や驚きを伝え合ったり、疑問に思ったことを言葉で表現したりする。

○友達と一緒に様々な表現を楽しむ中で、感性が豊かになる。

- ・いろいろな曲やリズムに合わせて、友達と一緒に体で表現することを楽しむ。
- ・音楽に親しみ、友達と一緒に声を合わせて歌ったり、気持ちを合わせて合奏したりする。
- ・いろいろな素材を使い、経験したこと、感じたこと、考えたことなどを、工夫してかいたりつくったりする。
- ・自然物を使って造形を楽しみ、人に見てもらう喜びを感じる。

- ・感染症や病気の治療などについて早めに家庭と連携し、健康管理に努める。
- ・安全な食生活、衛生的な生活の管理など、具体的に園での取り組みや配慮点を保護者に伝え、意識をもって生活するよう、子どもの健康状態を伝え合う。
- ・友達との遊びの中で子ども達が学んでいること、葛藤体験の必要性などを、懇談会や園だより、降園時の連絡などで伝えていく。
- ・飼育や栽培について家庭でも関心がもてるように、園での取り組みを具体的に知らせる。
- ・小学校と情報交換をし、協力し合えるようにする。又、保護者・地域の人・小学生・未就園児などが参加できる活動内容を取り入れ、交流を図る機会をつくり、つながりを深めていく。
- ・おたより・掲示板などで、年長児として意欲的に取り組んでいる姿や成長している姿を伝え、家庭でも褒めたり励ましたりすることで、子どもの自信につなげるようにする。
- ・体験入学に参加し、小学校への期待を膨らませる機会にする。また、初めての入学に不安を感じている保護者には、具体的な学校の様子や準備について知らせていく。
- ・小学校就学に向けて生活習慣が身に付くよう、保護者と生活の様子を共有し、生活の連続性を図り、共に育てる気持ちをもつ。